

令和3年度 小学校教員向け環境教育研修会 実施報告
「やってみよう！環境学習プログラム」
第1回「青梅の山林で自然体験」（テーマ：自然）

- 実施日時 令和3年8月16日（月）10時00分から12時00分まで
□受講者数 8名（教員8名）
□実施方法 Zoomを使用したオンライン開催
（配信場所：青梅市立成木小学校）

□実施内容

1. 事務連絡・開講挨拶等

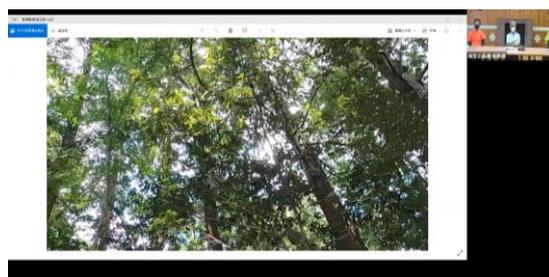
- ・事務局から受講上の注意、全体スケジュール等の説明

2. 講師・ゲストティーチャーからの講義

（講師：NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏

ゲストティーチャー：身近な森を活用する会 手塚幸子氏、佐藤向陽氏、
中島大輔氏、林敏幸氏、横山牧人氏、郡司聖氏、神棒尚之氏、）

【動画による疑似体験】



【現地から生中継】

当日の山林の様子や実際の植生の紹介



3. 参加者同士でのグループワーク

（講師：NPO法人環境学習研究会理事長 谷村春樹氏

ゲストティーチャー：身近な森を活用する会 手塚幸子氏、佐藤向陽氏、
中島大輔氏、林敏幸氏、横山牧人氏、郡司聖氏、神棒尚之氏、）

テーマ：子どもたちに自然の大切さを伝えるためにどのような授業を実施しているか、また、今後実施してみたいか

（授業実施や抱えている課題の例）

- ・自然と親しむこと、遊びの中で学ぶことが必要だと考えた。具体案は、森にあるものを使ったビンゴゲーム。森がない場合は校庭や近くの講演でも実施可。道徳の視点では、鳥や虫の視点で自然を見ること。音楽の視点では、森のものを使って楽器を作ったり、森のなかではどんな音がしているのかを聞いたりすること。
- ・自分たちが体験することが大切。都会には自然が少ないので青梅の学校と都会の学校でオンライン交換授業ができるとそれぞれの特徴を知ることが良いのでは。
- ・大雨土砂災害が増えているので自分の生活と結び付けて環境教育がしたい。iPadを活用した環境学習。校内でルーペを持っていつもと違った視点で校庭などを見る、見た内容を子どもたち同士で共有するだけでも環境教育になる。



（実施例や課題に対する講師からのアドバイス）

- ・自然に親しむことはまず自分で感じる事。
- ・いきなり自然豊かな場所に行っても身に着かない。まずは身近な街について知ることが環境学習の第一歩。
- ・小さいうちに体験しておくとも自然に対するハードルが下がる。
- ・環境学習においては絶対に教えてはいけない。子どもたちの発見する力、感じる力を引き出してほしい。そのためには一緒に楽しむことが大切。



4. 事務連絡

事務局からアンケートのご案内、解散